

平成29年2月25日(土)

能 烏頭 狩野了一
能 小塩 内田成信

平成29年9月9日(土)

能 野宮 友枝雄人
能 国栖 金子敬一郎

チケットのお申し込みは

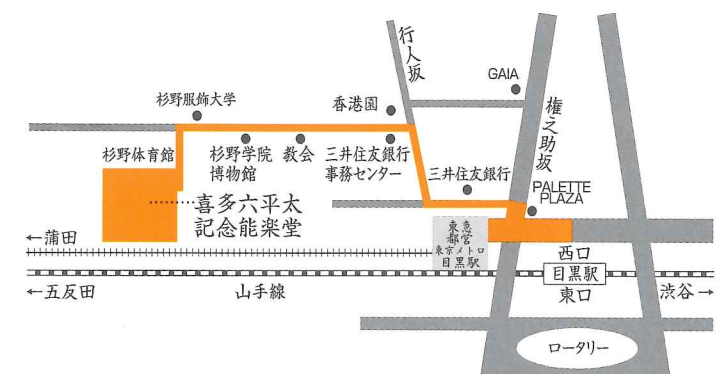
- ◆一般6,000円(前売り5,000円)
- ◆学生4,000円(前売り3,000円)
- ◆座席指定券—————2,000円

お申込み・お問合せ先

喜多能楽堂 Tel — 03(3491)8813
 狩野 了一 Tel Fax 03(3301)9788
 友枝 雄人 Tel Fax 03(5950)4543
 内田 成信 Tel Fax 03(3721)3311
 金子敬一郎 Tel Fax 048(432)6620
 E-Mail ————— ticket@jo-hu.net
 Web ————— http://jo-hu.net/
 チケットぴあ ———— http://t.pia.jp/
 Pコード:451114

十四世喜多六平太記念能楽堂

〒141-0021 東京都品川区上大崎 4-6-9



JR 線、東急目黒線、都営三田線、営団南北線ともに目黒駅下車、徒歩7分

※当能楽堂には駐車場がございませんので、お車でのご来場はご遠慮願います
※許可無き写真撮影・録画・録音等は固くお断りいたします

第二十四回

喜多流能楽 Jo-fu-kai

條風會

能 三 輪 金子敬一郎
 能 頼 政 内田成信
 能 昆布売 山本則重
 能 狂言 岩戸之舞

時をかさね あらたに たち起こる風

平成二十八年九月十日(土)

午後十二時三十分始(開場午前十一時三十分)

十四世六平太記念能楽堂

番組

仕舞 大江山 友枝雄人
船橋 狩野了二

地謡 友枝雄太郎
粟谷浩之
粟谷充雄
佐藤陽

後シテ・頼政の靈
前シテ・老人 内田成信

能 頼政

ワキ・旅僧 殿田謙吉

大鼓 柿原弘和
小鼓 鶴澤洋太郎 笛 杉信太郎

アイ・宇治の里人 山本泰太郎

後見 友枝昭世
内田安信

地謡 狩野祐一
友枝真也
栗谷浩之
佐藤寛泰
中村雲邦
大村能夫
出谷康生

狂言 昆布売

シテ・大名山本則重

アド・昆布売山本則秀

休憩 二十分

仕舞 鳥追船

塩津哲生

地謡 谷友枝
友枝雄人
狩野了二
内田成一

能 三輪

後シテ・三輪明神
前シテ・里女 金子敬一郎

ワキ・玄賓僧都 生欣哉

アイ・三輪の里人 山本泰太郎

大鼓 亀井広忠
小鼓 観世新九郎 太鼓 観世元伯
笛 一噌隆之

後見 塩津哲生
佐々木多門

地謡 佐藤陽枝
大島久長
栗谷充雄
塩津圭介
狩野了二

終了予定 午後四時三十分頃

頼政（よりまさ）

旅僧が奈良へ向かう途中に宇治の里を通りかかり、すばらしい風景に見とれていると、老翁が現れて旅僧に声をかけます。旅僧がこのあたりの名所旧跡を尋ねると、老翁は様々な名所を旅僧に教え、さらに平等院へと案内します。旅僧が平等院の庭に扇の形に刈り込まれた芝があるのを不審に思つて老翁に尋ねると、この扇の芝は源頼政が自害して果てた場所であり、しかも今日がその合戦のあった日だと語りまします。やがて老翁は自分が頼政の霊であることを明かし、いずこへともなく姿を消します。

所の者から頼政が平家と戦うことになった経緯などを聞いた旅僧が再び頼政の霊が現れるのを待っていると、法師姿で武装した頼政が現れ、さらに経を読んでほしいと言います。頼政は、平家に謀反を起こして奈良へ向かう途中で平家に追いつかれ、宇治橋を挟んで合戦となつたことや、三井寺の僧兵たちの活躍ぶり、足利又太郎忠綱の指示によつて平家が馬で宇治川を渡る様子などを語つて聞かせます。そして「埋もれ木の花咲くこともなかりしに身のなる果てはあはれなりけり」という歌を遺して扇の芝で自害したことを語ると、自分を弔つてほしいと言ひ残して再び姿を消していきま

妖怪、鶴（ぬえ）を退治したことでも知られる武将ですが、家集『頼政集』を遺すほど和歌の道にもたけた風流人でした。朝廷で平氏が高慢を極める中、それまで正四位下を最上位としていた源氏としては異例の従三位に叙せられていたことから源三位（げんざんみ）と称されました。終曲部の扇の芝と辞世の和歌のエピソードなどにもその風流人ぶりがよく現れています。

昆布売（こぶり）

大名は外出するのに今日に限つて太刀持ちが居ません。適当な者に供をさせようと、通りかかった若狭の小浜の召し（献上）の昆布を売る男をつかまえて、無理矢理太刀持ちにさせます。いろいろと口やかましい大名に怒つた昆布売りは、大名を油断させてから太刀を抜いておどし、刀を返して欲しければ昆布を売れと言います。昆布の売り声を平家節、小歌節といろいろ変えさせて、大名をからかいます。

三輪岩戸之舞（みわ いわたのまい）

大和国・三輪山の麓に庵をかまえている玄賓僧都のもとへ、毎日橋と鬨伽の水を持つてくる女があります。今日も、この庵を訪れた女は、罪を助けてほしいと、僧に頼み、そして衣を一枚所望します。僧は衣を与え、女の住家を探ねると、杉立てる門を目印にお尋ねなさい、と言ひ捨て、姿を消します。里の男が三輪明神に参詣すると、御神木の枝に一枚の衣が掛かつています。見ると玄賓僧都の衣なので、早速僧都に知らせます。僧都が神前に来て見ると、自分の衣が掛かつており、その裾に一首の歌が書いてあります。それを詠むと、杉の木陰から声がして、三輪明神が現れ、神も衆生を救うため、迷い深い心を持つことがあるので、罪を助けてほしいと言います。そして三輪の妻訪いの神話を語り、天照大神の岩戸隠れの神話を物語り、神楽を舞いますが、夜明けと共に消えゆきま

す。大和三輪の神婚説話と、天岩戸の神話と、玄賓僧都に関する伝説をからませて独自の構成を持つ曲です。
今回の小書「岩戸之舞」では、太陽神である天照大神が隠れ、世界が真っ暗になった岩戸隠れの場面を表現する立廻りが演じられます。